

事前研修会

- ・第 1 回 令和5年12月27日（水）「アイヌの人たちの文化等のこと」
- ・第 2 回 令和6年1月11日（木）「白糠町のこと」
- ・第 3 回 令和6年2月2日（金）「ニュージーランドのこと」

令和5年度青少年海外研修事業

- ・日 時 令和6年2月11日（日）から2月17日（土）
- ・参加者 11名（中学生6名、高校生2名、引率者3名）
※ 参加生徒の内訳は、白糠学園3名、茶路中学校1名、庶路学園2名、白糠高校2名
- ・場 所 ニュージーランド（オークランド、ロトルア）
- ・事業内容 交流事業、視察研修事業

1日目：2月11日（日）いざニュージーランドへ！

出発当日の朝、釧路空港内で家族や関係者が見守る中、茶路中学校2年生の工藤君が研修参加者を代表して出発式で挨拶。その後、10時10分発の羽田空港行きの飛行機に乗り込み、羽田空港へ移動。羽田空港で昼食のお弁当をいただいた後、バスで成田空港へ。今回参加した生徒は全員海外が初めてということでしたが、無事成田空港で出国審査等の手続を終え、18時30分発のニュージーランド空港行きに搭乗し、約10時間30分の長い飛行機の旅へ出発。



この日の主なできごと

- ・出発式
- ・釧路空港発
- ・羽田空港から成田空港へ移動
- ・ニュージーランド空港（オークランド）へ移動（機内泊）

2日目：2月12日(月)オークランド空港からロトルアへ

2日目の朝は、機内で迎えました。ニュージーランドは日本より時差が4時間早いため、現地時間の6時（日本時間では深夜の2時）の機内食の案内で起床し、9時にニュージーランド空港に到着。入国審査では長蛇の列ができていましたが、全員無事に入国の手続を終えました。その後、各自、空港内でNZドルに両替をしたり、飲料水を購入したりしてから、貸切バスに乗り込み、オークランド市内に向かいました。

オークランド市内では、昼食会場に向かう途中、市内を一望できるスカイタワーに寄り、昼食後には、オークランド戦争記念博物館やマイケルジョセフサベージメモリアルパークを視察し、交流事業の実施場所であるロトルアへ移動しました。ホテルに到着したのは、日本を出発してから約30時間後の現地時間の17時頃で、さすがに生徒たちは疲れているようにみえましたが、夕食後にミーティングを行い、翌日の学校訪問での発表等の内容を確認して2日目を終えました。



この日の主なできごと

- ・ニュージーランド（オークランド）到着
- ・オークランド戦争記念博物館、マイケルジョセフサベージメモリアルパーク視察
- ・陸路でオークランドからロトルアへ移動

3日目：2月13日(火)テランギハカハカでの交流事業

3日目は、現地学校での交流事業。当日朝、現地ガイドとホテルのロビーで合流した際に、学校での歓迎の儀式で、テランギハカハカ（現地学校）の生徒達が歌で歓迎をしてくれるので、こちらからも歌でお返ししてくださいとのオーダーが入りました。急な話で生徒達に衝撃が走るも、すぐに気持ちを切り替え、みんなが歌える歌ということで「翼をください」を選曲し、ホテルの朝食会場で練習をしてから、学校に向かいました。

学校では、「ポフィリ」と呼ばれるマオリ族の歓迎の儀式で迎え入れていただきました。最初に、男性で長に当たる方よりマオリ語で歓迎の挨拶を受け、（現地ガイドから、歓迎の儀式の時には通訳しないものですとの説明が事前がありましたので、後で内容を伺ったところ、マオリの歴史・文化・居住地等の説明をされていたとのことでした。）その後、全校

生徒が歓迎の歌を歌ってくれました。こちらも訪問団の団長として教育長が日本語で挨拶をし、その後、全員で「翼をください」を精一杯熱唱しました。儀式の最後には、迎え入れてくださった長や校長先生方一人ひとりと「ホンギ（日本では握手だが、NZでは鼻と鼻を合わせる行為）」で挨拶を交わしました。

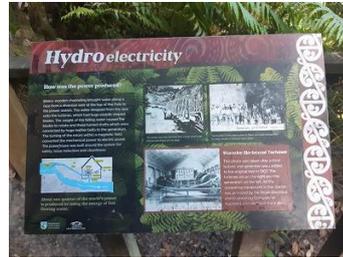
学校での交流事業については、今回参加した本町の生徒一人ひとりにバディを付けていただき、最初に学校内を案内してくれ、その後、授業を一緒に受けました。現地の授業は、日本と違い、自分の机というものがなく、また、チャイムがなく授業の時間が決まっていないスタイルに生徒は驚いていました。休み時間も先生の気分次第で時間が決まっているのかという印象を受けましたが、その中でも、男子生徒は校庭でバスケットをしたり、また、ラグビーのニュージーランド代表チーム「オールブラックス」が試合前にする「ハカ」という儀式を教わったりしていました。女子生徒は、マオリ族に伝わる「ポイ」（紐の先におもりが付いており、それを回しながら歌を歌う）を教わり、こちらからは日本のアルプス一万尺を教えるなどし、初めて対面した同士とは思えない雰囲気です。学校生活を過ごしていました。

約5時間30分の滞在時間でしたが、最後は、テランギハカハカ全校生徒の前で、参加した生徒一人ひとりが発表をする時間をいただきましたので、それぞれの生徒から、日本文化をはじめ、事前学習で勉強したアイヌ文化のことを発表しました。日本の「すし」や「てんぷら」などの食文化を紹介した時には、「おおっ！！」という声があがりましたが、中でも日本の漫画を紹介した時には、現地でもものすごい人気があるようで、歓声が飛び交ったのが記憶に残っています。

個別の発表が終わった後、参加者全員でアイヌ舞踊の「輪踊り」を披露し、その後質疑応答の時間となりました。さまざま質問が出ましたが、高学年の生徒からは、アイヌの文様についての質問があり、事前にアイヌの方々から教わった言い伝えを答えていました。質疑応答も終わり、交流事業の締めくくりとして、校庭で全校生徒と記念撮影をし、それぞれのバディとお別れの挨拶を交わし、交流事業を終えました。

3日目は、この学校交流事業で終了予定でしたが、バスの運転手さんが気を遣ってくださり、ロトルア湖を外周し、マオリ族が歓迎の儀式で使用する「シダ」の葉が生息するオケレ滝を案内してくれ、帰りには、世界一まずいと言われているジャムを購入できる現地スーパーに連れて行ってくださいました。

ホテルに着くと、さすがに生徒は疲れた様子でしたが、夕食後にミーティングを行い、翌日のマオリ族との交流事業の段取り等をみんなで確認して3日目を終えました。



この日の主なできごと

- ・テランギハカハカ（現地学校）で交流
- ・ロトルア湖、オケレ滝視察

※ テランギハカハカ（訪問した学校）は、マオリ文化を絶やさないように、授業に独自のカリキュラムを組み入れている。マオリ族を含む様々な人種の生徒が通い、言語は主にマオリ語と英語で行われ、男女共学の小中一貫校で、100名規模の学校。

4日目：2月14日（水）マオリ村での交流事業

4日目の午前中は、ポフツカイザー（間欠泉）、マオリ美術工芸学校を視察し、ニュージーランドの歴史、マオリ族の文化等に触れることができました。また、レッドウッズ・ツリ

一ウォークでは、樹齢100年を超える木々が立ち並んでいましたが、国としても樹木の保護に力を入れているという説明を受けるなど、環境についても学ぶことができました。

午後からは、テパトゥマオリビレッジでマオリ族との交流事業を実施しました。

最初に、昨日の学校訪問時と同じようにマオリ族による歓迎の儀式が行われました。最初に歌で迎え入れてくれ、先方の長から挨拶がありました。その後、当方の団長（教育長）より挨拶をし、前日同様「翼をください」の歌でお返しをしました。参加した生徒は、場所が屋外だったためか、前日に一度実施していたためか、あるいは、先方の歓迎の歌の音量に感化されたためか、いずれにしても前日より音量が増していたように感じました。

場所を屋内に移し、お茶と御菓子のおもてなし「アフタヌーンティー」で歓迎をしていただきました。ここで、白糠町が日本のどこに位置しているのか説明をした際に、先方から、数年前に日本に行った場所とすぐ近くだという返答があり、場所を伺うと、阿寒湖でアイヌ民族との交流をしたことがあるということで話が盛り上がりました。

腹ごしらえをした後は、場所を広場に移し、マオリ族の伝統的な遊びである手遊び、スティックゲーム、言葉遊びを教わりました。参加した生徒からは、「日本に帰ったら生徒会でやってみよう」、「こういう遊びは、言葉は違えど全世界共通で盛り上がることができる」などの声が聞こえてきました。（なお、スティックゲームは棒を倒さないでいられた人が勝ちというゲームで、廣橋君が見事チャンピオンになりました。）

その後、生徒たちの発表の時間に移りました。事前に日本で学習してきたアイヌ文化について、生活形態、日本でのアイヌ文化に対する認知度などを各自一人ひとりが発表するとともに、アイヌ民族に伝わる竹製の楽器「ムックリ」やアイヌの伝統的な踊りである「輪踊り」を披露しました。その後、質疑応答の時間となりましたが、こちらから答えるよりも、質問している時間が多かったように感じました。

このテパトゥマオリビレッジは、一般客の受入れをしている施設でありましたので、夕方になると一般客も来場してきました。ここで一旦交流事業は中断となり、我々も一般客と合流し、改めて歓迎の儀式を体験することができました。前日の学校訪問での全校生徒が歌もすばらしかったのですが、ここで聞いた歌はまた違った迫力があり、生徒からは、マオリ族は音量がものすごく大きいのに、みんな歌も上手だよねという声が聞こえてきました。

歓迎の儀式が終わると、マオリ族の伝統的な技や踊り「ハカ」、「ポイ」、「スティックゲーム」を体験することができました。参加した生徒からは、「前日に教わったハカとはまた種類が違う」や「ポイは昨日もやったけど、やっぱり難しいよね」などの声が聞こえてきました。

一通り文化的なパフォーマンスの体験が終わると、夕食の時間となりました。ここで一般客とは別の部屋に案内され、交流事業が再開しました。ここでは、マオリ族の長が同席の上、「ハンギ」と言われるマオリ族の伝統的な料理（タンドリーチキン、鴨肉、豚肉、蒸し野菜、マオリのパン）でおもてなしを受けました。この夕食の時間で、参加した生徒は、マオリ族の文様の由来や地域によるハカの違いなど、時間の許す限りマオリ文化に関する質問をし、

互いの文化の共通点や相違点などを学びました。遅い時間まで交流が続きましたが、参加した生徒からは、「アイヌ文化とマオリ文化では、国民の認知度が違う」などの声があり、「とても勉強になったし、異文化の刺激を受けました」との意見には、参加者全員が同調していました。

この日でメインとなる交流事業が終わり、夜のミーティングでは、翌日の日程について確認し、4日目を終えました。





この日の主なできごと

- ・ポフツカイザー（間欠泉）視察修
- ・マオリ美術工芸学校視察
- ・レッドウッズツリーウォーク視察
- ・テパトゥマオリビレッジでマオリ族と交流

5日目：2月15日(木)ロトルアからオークランドへ

5日目は、帰国するために国際空港があるオークランドに移動する日でした。朝食後、この旅初めてとなるホテルのチェックアウトを体験。それぞれ荷物をまとめ、部屋を出る際に忘れ物がないか引率者の確認を終えてから、各自部屋を後にしました。午前中は少し時間がありましたので、スーパーでお土産を購入してから、アグロドームへ移動。ニュージーランドには、人口の約6倍の数がいると言われている羊のファームショーを見学し、同会場で昼食を食べてから、オークランドに向けて出発しました。

オークランドに向かう途中、ワイトモで土ボタルを鑑賞し、夜にオークランドに到着しました。翌日は、飛行機でいよいよ日本に向けて出発しますが、朝、時間が早いことから、ミーティングで寝る前に荷支度を済ませておくことを確認してから5日目を終えました。



この日の主なできごと

- ・ロトルア市内のスーパーで買い物
- ・アグロドームのファームショー
- ・土ボタル観賞
- ・陸路でロトルアからオークランドへ移動

6日目：2月16日(金)名残惜しみながら日本へ

6日目は、日本に向けて出発の日です。朝6時に、チェックアウトを済ませた後、日本に着くまでの行程を確認するためにミーティングを行いました。この旅全てに言えることですが、この日も問題なく予定どおり出発でき、今回参加している生徒は本当に手がかからない優秀な子ばかりという印象を持ちました。

オークランド空港には、スケジュールどおり日本行きの飛行機の出発の2時間前に到着し、大変お世話になったバスの運転手さんとここでお別れ。通訳もできる大変優秀な方で、道中バスガイドのようにいろいろなお話を聞かせてくれました。また、御縁がありましたら、いつかお会いしましょうとお別れをしました。

空港内に入るとすぐに出国の手続へ。みなさん、何事もなく無事出国の手続を済ませられたこともあり、飛行機の時間まで各自空港内でショッピングで時間を潰し、日本行きの飛行機に乗り込みました。

日本までの時間は10時間30分ということで、機内食が昼食と夕食の2回出てきましたが、この日は朝食をホテルで済ませたこともあり、3食目はさすがに残した生徒が多かったようです。

予定どおり、成田空港には16時50分に到着し、そこからホテルまでは約2時間かかりましたので、19時頃にホテルに到着しました。本日4食目となる食事で、お腹もそこまで減っていなかったようですが、久しぶりの和食ということもあり、皆さんお米とお味噌汁が出てきた瞬間は、大変喜んでおりました。

夕食後、最後のミーティング。まだ旅は終わっていないので、最終日の予定をみんなで確認し、6日目を終えました。



この日の主なできごと

- ・ニュージーランド（オークランド空港）から成田空港へ

7日目：2月17日(土) 帰宅の途へ

最終日。ホテルを出発し、羽田空港へ移動。昼食はお弁当があたりましたので空港内でいただき、釧路空港行きの飛行機に乗り込みました。

釧路空港に到着すると、保護者の方々のほか、各学校の先生方も空港までお出迎えに来てくださっていました。たくさんの方々が見守る中、解散式を行い、参加生徒を代表して白糖学園の渡邊さんが挨拶。行きの工藤君の挨拶に感化されたのか、とても立派な挨拶で、この旅を締めくくりました。

最後にお世話になって添乗員さんにお礼をし、参加者全員で記念撮影をして、今回の旅を終えました。



この日の主なできごと

- ・羽田空港から釧路空港へ
- ・解散式

事後研修会

- ・日 時 令和6年3月14日（木） 16時00分～18時00分
- ・場 所 白糖町役場 2階会議室A、B
- ・内 容 参加生徒各自が研修内容等の報告書を作成し、保護者、学校の先生、教育委員会職員等の前でパワーポイント等を使用し、一人7分～10分程の時間でそ

れぞれ発表しました。報告書の作成にあたっては、帰国後すぐに学校のテストがあり、勉強の合間に作成したという声もありましたが、中学生、高校生が作ったとは思えないほどのパワーポイントの出来栄で、どの生徒も立派な報告内容となっていました。

事後研修（少年の主張発表）

- ・日 時 令和6年5月19日（日） 10時30分～11時50分
- ・場 所 白糠町社会福祉センター大会議室
- ・内 容 ニュージーランド研修参加者を代表して、白糠学園8年の廣橋君と渡邊さんが、アイヌ文化や今回の研修で学んだことを発表しました。当日は、多くの町民の方々が参列していましたが、3月14日の事後研修の時の内容に更に磨きがかかっており、とても素晴らしい発表でした。

